

児童用達成関連感情尺度日本語版の作成

○鈴木雅之 (横浜国立大学)

利根川明子 (東京大学大学院)

キーワード: 達成関連感情, 統制-価値理論, 学習動機づけ

問題と目的

試験で良い成績をとって誇らしく感じたり、宿題をしていて退屈に感じたりと、学習者は学業場面で様々な感情を経験している。また、学習者が経験する感情は、学習動機づけや学習方略の使用、学業成績などに関わる重要な要因である (Pekrun, 2006)。しかしながら、教授・学習に関する心理学研究では、学習者の感情に着目したものが少なく、特に、児童の感情に着目した研究は乏しい。その原因の 1 つとして、児童が学業場面で経験する感情を測定するための尺度が限定的であることが挙げられる (Lichtenfeld et al., 2012)。そこで本研究では、児童用達成関連感情尺度 (AEQ-ES; Lichtenfeld et al., 2012) の日本語版 (AEQ-ES-J) を作成する。また、AEQ-ES-J の妥当性の外的な側面の証拠について検討するために、自己効力感と課題価値、学習動機づけ、学業成績との関係について検討する。

方 法

参加者

公立小学校 3 校に所属する小学 4—6 年生 863 名 (男子 412 名, 女子 445 名, 不明 6 名) を対象に調査を行った。

調査内容

AEQ-ES-J AEQ-ES は 28 項目からなる尺度であり、授業と宿題、テスト場面における楽しさと不安、授業と宿題場面における退屈について測定する。日本語版の作成にあたり、原著者から承諾を得た後に、第 1, 2 著者が翻訳を行った。次に、中学校での英語教師経験のある大学院生が翻訳を確認した。最後に、英文校閲会社にバックトランスレーションを依頼した。回答は 5 件法で求めた。

自己効力感 6 項目からなる自己効力感尺度

(伊藤, 1997) を用いて、5 件法で回答を求めた。

課題価値 「算数の勉強は大切だと思います」の 1 項目に対して、5 件法で回答を求めた。

学習動機づけ 自律的学習動機尺度 (西村他, 2011) から、内発的動機づけと外発的動機づけに関する 3 項目を用いて、4 件法で回答を求めた。

学業成績 「あなたの算数の成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか」という項目に対して、5 件法で回答を求めた。

結果と考察

AEQ-ES-J の因子構造および信頼性

確認的因子分析を行い、1) ポジティブ感情とネガティブ感情の 2 因子からなるモデル、2) 楽しさと不安、退屈の 3 因子からなるモデル、3) 各場面の個別感情を 1 次因子、場面に共通する感情を 2 次因子とした階層モデルの 3 つのモデルを比較した。分析の結果、階層モデルのデータに対する当てはまりが最も良好であり、先行研究と同一の知見が確認された。また、8 つの 1 次因子ごとに α 係数を求めた結果、.66— .80 であり、許容可能な内的整合性が確認された。

AEQ-ES-J の内的妥当性

学業場面ごとに 3 つの感情間の相関係数を求めた結果、いずれの場面においても、楽しさは不安および退屈と負の相関、不安と退屈は正の相関を示した。また、3 つの感情ごとに場面間の相関係数を求めた結果、どの場面の組み合わせにおいても、同一の感情は正の相関を示した。

AEQ-ES-J の外的妥当性

AEQ-ES-J と外的変数との相関係数を求めた結果 (Table 1)、相関関係は統制-価値理論と整合的なものであり、AEQ-ES-J の妥当性の外的な側面の証拠が示されたといえる。

Table 1 感情と外的変数との相関係数

	楽しさ			不安			退屈	
	授業	宿題	テスト	授業	宿題	テスト	授業	宿題
自己効力感	.46**	.36**	.36**	-.21**	-.23**	-.16**	-.41**	-.40**
課題価値	.67**	.58**	.70**	-.47**	-.55**	-.52**	-.50**	-.53**
内発的動機づけ	.76**	.72**	.71**	-.37**	-.49**	-.38**	-.61**	-.64**
外発的動機づけ	-.29**	-.29**	-.28**	.31**	.36**	.34**	.29**	.34**
成績	.46**	.38**	.51**	-.40**	-.46**	-.47**	-.32**	-.36**

** $p < .01$